

第42回山梨県環境保全審議会（平成26年12月9日開催）

報告事項(1)資料

環境指標の状況について

森林環境総務課

環境指標の状況について

山梨県環境基本計画(平成17年2月策定)においては、56項目の環境指標を設定しています。

山梨県環境基本計画の計画期間(平成17年度～25年度)及び計画の最終年度である平成25年度末における環境指標の状況は次のとおりです。

1 全般的な状況

環境指標の状況は、目標を達成しているもの、指標が基準値より改善しているもの、指標が基準値から横ばいであるもの、指標が基準値から改善していないもの、特殊な事情により評価できないもの、事業を廃止したものに分類し点検・評価を行ってきました。計画期間における「達成」「改善」(及び)が占める割合を施策分野毎に算出した結果は、図表1のとおりです。ほとんどの施策分野で80%以上でしたが、「7 情報の提供」では、36%、「8 調査・研究の実施」では、67%でした。

平成26年3月に策定した第2次山梨県環境基本計画においても、51項目の環境指標を設定し、施策及び事業の成果の定期的な点検・評価をととした進行管理を行うこととしています。

図表1 山梨県環境基本計画 施策分野毎の環境指標の状況(「達成」「改善」の割合)(平成17～25年度)

施策分野		平均(H17～25)
環境の保全と創造のための施策の展開		
1	循環型社会システムの確立	80%
2	豊かな自然環境の保全	90%
3	さわやかな生活環境の保全と創造	86%
4	地球環境保全対策の推進	83%
5	環境教育・環境学習の推進	85%
6	自発的な活動の促進	97%
7	情報の提供	36%
8	調査・研究の実施	67%
重点的に取り組む施策		
重点1	富士山の環境保全対策の推進	81%
重点2	森林・緑地の保全等の推進	86%
重点3	水環境の保全等の推進	87%
重点4	環境の保全に資する農業の促進	94%
重点5	廃棄物等の発生抑制等の推進	80%
重点6	地球温暖化対策の推進	83%

56項目の環境指標を施策分野毎に分類し、「達成」「改善している」指標が占める割合のH17～25年度平均を表示

2 指標項目毎の状況

計画期間の平成17年度から平成25年度における指標項目毎の状況は、図表2のとおりです。

計画期間を通じて目標を達成した項目は、環境科学研究所における環境学習プログラム参加者数(No.34)、環境美化活動参加者数(No.41)など11項目(No.7、10、16、17、19、21、26、27、55)でした。

平成25年度末現在、目標を達成しているものは、自然公園等利用者数(No.12)、環境学習指導者派遣回数(No.40)など全56項目中半数強の29項目でした。また、指標が基準値から改善しているものは、県民1人1日当たりごみ排出量(No.2)、やまなし森の教室参加人数(No.35)など12項目でした。

計画期間を通じて指標が基準値から横ばい、あるいは改善していないものは、大気汚染に係る環境基準達成測定局数(光化学オキシダント)(No.20)など3項目(No.46、47)でした。

平成25年度末現在、指標が基準値から横ばいだったものは、水質汚濁に係る環境基準達成地点数(湖沼)(No.24)など2項目でした。また、指標が基準値から改善していないものは、自然監視員委嘱数(No.9)、山梨環境科学カレッジ修了者数(No.39)など12項目でした。

指標が基準値から横ばい、あるいは改善していないものについては、引き続き原因の分析や施策及び事業の見直しを進め、改善を図ることとします。

図表2 山梨県環境基本計画 環境指標の状況(指標項目毎)(平成17~25年度)

<評価・分類方法> 年度毎に目標値に対する達成状況を次のとおり評価して分類

達成 目標値<現状値、改善している 基準値<現状値<目標値、横ばい 基準値=現状値、改善していない 現状値<基準値、
特殊な事情により評価できない(1)、- 事業廃止(2)

施策分野	No.	指標の項目	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
1 循環型社会システムの確立	1	一般廃棄物総排出量	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	2	県民1人1日当たりごみ排出量(資源回収されるものを除く。)	達成	達成	改善	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	3	一般廃棄物リサイクル率	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	4	産業廃棄物総排出量	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	5	産業廃棄物再生利用量	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	6	産業廃棄物最終処分量	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
2 豊かな自然環境の保全	7	自然環境保全地区面積(自然造成地区は除く。)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	8	鳥獣保護区等指定面積	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	9	自然監視員委嘱数	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
	10	山岳レインジャーの延べ人数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	11	緑サポーター登録者数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	12	自然公園等利用者数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	13	「森林文化の森」パートナー数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	14	富士山山小屋トイレ整備率	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	15	河川水辺環境整備箇所数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
3 さわやかな生活環境の保全と創造	16	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(二酸化硫黄)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	17	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(一酸化炭素)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	18	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(浮遊粒子状物質)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	19	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(二酸化窒素)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	20	大気汚染に係る環境基準達成測定局数(光化学オキシダント)	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい
	21	低公害車導入台数(軽自動車を除く。)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	22	エコドライブ宣言車両率	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	23	水質汚濁に係る環境基準達成地点数(河川)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	24	水質汚濁に係る環境基準達成地点数(湖沼)	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
	25	生活排水クリーン処理率	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	26	ダイオキシン類の環境基準達成地点数(大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	27	自動車騒音に係る環境基準達成率(昼夜間とも基準値以下)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	28	電線類地中化延長	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	29	国県指定文化財数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	30	市街地内の人口1人当たりの身近な公園の整備面積	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	31	「緑の教室」受講者数	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
4 地球環境保全対策の推進	21	(再掲)低公害車導入台数(軽自動車を除く。)	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	22	(再掲)エコドライブ宣言車両率	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
	32	温室効果ガス総排出量(1)	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善	改善
	33	森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成

1 H21の指標No.32(温室効果ガス総排出量)は、中越沖地震により柏崎原発が全面停止となり、電気に係るCO₂の排出源原単位が大幅に増加したため、「特殊な事情により評価できない」とした。

施策分野	No.	指標の項目	H	H	H	H	H	H	H	H
			17	18	19	20	21	22	23	24
5 環境教育・環境学習の推進	31 (再掲)「緑の教室」受講者数									
	34 環境科学研究所における環境学習プログラム参加者数									
	35 やまなし森の教室参加人数									
	36 学校林活動実施校数									
	37 親子エコスクール参加者数(2)					-	-	-	-	-
	38 環境科学研究所による学習指導者派遣回数									
	39 山梨環境科学カレッジ修了者数									
	40 環境学習指導者派遣回数									
6 自発的な活動の促進	41 環境美化活動参加者数									
	42 土木施設環境ボランティア数									
	43 人口10万人当たりのNPO法人数									
	44 森林ボランティア団体数									
7 情報の提供	45 環境科学研究所来館者数									
	46 環境情報センター-利用者数									
	47 環境科学研究所における図書等貸出数									
	48 やまなしの環境アクセス数									
8 調査・研究の実施	49 環境科学研究所研究テーマ数									
	50 環境研フォーラム、国際シンポジウム参加者数									
重点1 富士山の環境保全対策の推進	14 (再掲)富士山山小屋トイレ整備率									
	24 (再掲)水質汚濁に係る環境基準達成地点数(湖沼)									
	51 富士山周辺の環境美化活動参加者数									
	52 富士山スバルラインのマイカー利用率									
重点2 森林・緑地の保全等の推進	11 (再掲)緑サポーター登録者数									
	13 (再掲)「森林文化の森」パートナー数									
	30 (再掲)市街地内の人口1人当たりの身近な公園の整備面積									
	33 (再掲)森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量									
	36 (再掲)学校林活動実施校数									
	44 (再掲)森林ボランティア団体数									
重点3 水環境の保全等の推進	53 新規林業就業者数									
	15 (再掲)河川水辺環境整備箇所数									
	23 (再掲)水質汚濁に係る環境基準達成地点数(河川)									
	24 (再掲)水質汚濁に係る環境基準達成地点数(湖沼)									
	25 (再掲)生活排水クリーン処理率									
重点4 環境の保全に資する農業の促進	54 水源の森づくり面積(育成複層林面積)									
	55 エコファーマー認定者数									
重点5 廃棄物等の発生抑制等の推進	56 甲斐のこだわり環境農産物認証件数									
	1 (再掲)一般廃棄物総排出量									
	2 (再掲)県民1人1日当たりごみ排出量(資源回収されるものを除く。)									
	3 (再掲)一般廃棄物リサイクル率									
	4 (再掲)産業廃棄物総排出量									
	5 (再掲)産業廃棄物再生利用量									
重点6 地球温暖化対策の推進	6 (再掲)産業廃棄物最終処分量									
	21 (再掲)低公害車導入台数(軽自動車を除く。)									
	22 (再掲)エコドライブ宣言車両率									
	32 (再掲)温室効果ガス総排出量(1)									
	33 (再掲)森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量									

2 指標No.37(親子エコスクール参加者数)は、事務事業の見直しにより「環境学習における指導者派遣事業」(H21-)で所期の目的が達成できるため、事業を廃止した。

図表3 山梨県環境基本計画 環境指標の状況(図表2の集計)(平成17~25年度)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
目標を達成しているもの	18	25	23	29	32	32	29	29	29
指標が基準値より改善しているもの	19	20	23	21	18	17	18	17	12
指標が基準値から横ばいであるもの	13	8	6	4	1	2	1	1	2
指標が基準値から改善していないもの	6	3	4	2	3	4	7	8	12
特殊な事情により評価できないもの	0	0	0	0	1	0	0	0	0
- 事業を廃止したもの	0	0	0	0	1	1	1	1	1

3 環境指標一覧

図表4 山梨県環境基本計画 環境指標一覧(25年度)

基準値、現状値及び目標値のかつこ内は年度。かつこ書きがない目標値は計画最終年度（H25）の目標。

	指標の項目	基準値	現状 (平成25年度末)	目標値	推進 状況	備考(平成25年度末)
1	一般廃棄物総排出量	328千t(H20)	314千t(H24)	293千t(H27)	↗	
2	県民1人1日当たりごみ排出量 (資源回収されるものを除く。)	984g/日(H20)	949g/日(H24)	897g/日(H27)	↗	
3	一般廃棄物リサイクル率	18.5%(H20)	17.3%(H24)	25%(H27)	↘	集団回収量(市町村の資源化物の分別収集とは別に行われている地域の自治会などを行う資源回収)の減少や焼却施設(中間処理施設)における資源化の低迷等が要因。
4	産業廃棄物総排出量	1,841千t(H20)	1,794千t(H24)	1,764千t(H27)	↗	
5	産業廃棄物再生利用量	920千t(H20)	864千t(H24)	882千t(H27)		
6	産業廃棄物最終処分量	144千t(H20)	198千t(H24)	105千t(H27)	↘	再生利用される量が少ない鉱業の汚泥が増加したため、最終処分量が増加。
7	自然環境保全全地区面積 (自然造成地区は除く。)	3,650ha(H15)	3,650ha(H25)	3,650ha		
8	鳥獣保護区等指定面積	77,227ha(H15)	74,795.9ha(H25)	74,795.9ha(H28)		
9	自然監視員委嘱数	216人(H16)	183人(H25)	250人	↘	募集・再募集を行っているが定員に満たない状況。
10	山岳レインジャーの延べ人数	312人(H19)	228人(H25)	228人		
11	緑サポーター登録者数	60人(H15)	194人(H25)	360人	↗	
12	自然公園等利用者数	3,381万人(H14)	4,637万人(H25)	3,653万人		
13	「森林文化の森」パートナー数	5団体(H15)	15団体(H25)	15団体		
14	富士山山小屋トイレ整備率	33.3%(H15)	100%(H25)	100%		
15	河川水辺環境整備箇所数	67箇所(H15)	83箇所(H25)	90箇所	↗	
16	大気汚染に係る環境基準達成測定局数 (光化学オキシダントのみ短期的評価、 その他は長期的評価)	二酸化硫黄 3測定局中3測定局(H15)	3測定局(H25)	3測定局		
17		一酸化炭素 2測定局中2測定局(H15)	2測定局(H25)	2測定局		
18		浮遊粒子状物質 12測定局中12測定局(H15)	10測定局(H25)	12測定局	↘	笛吹局、南部局で非達成。年間の平均値では、両局とも、環境基準値(0.1mg/m3)以下であったが、環境基準を超える日が2日連続あったため、非達成。
19		二酸化窒素 11測定局中11測定局(H15)	11測定局(H25)	11測定局		
20	光化学オキシダント 10測定局中0測定局(H15)	0測定局(H25)	達成率の向上を図ります。	→		
21	低公害車導入台数 (軽自動車を除く。)	49,940台(H15)	37,818台(H24)	増やします。		当該指標の基となる国土交通省の調査において、平成24年度から、「低公害車」の対象が変更となったため、平成23年度までと単純比較はできないが、H24年度の低公害車新規登録車両数が15,967台にのぼり、前年度から純増していると推測されることから、目標値達成とした。
22	エコドライブ宣言車両率	12.3%(H15)	20.2%(H25)	16%		
23	水質汚濁に係る環境基準達成地点数	河川22地点中18地点(H15)	19地点(H25)	22地点	↗	
24		湖沼5地点中3地点(H15)	3地点(H25)	5地点	→	
25	生活排水クリーン処理率	63.9%(H15)	79.7%(H25)	82%	↗	
26	ダイオキシン類の環境基準達成地点数 (大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	すべての調査地点で達成(H15)	すべての調査地点で達成(H25)	すべての調査地点で達成		
27	自動車騒音に係る環境基準達成率 (昼夜間とも基準値以下)	(面的評価)73.6%(H15)	94.82%(H25)	達成率の向上を図ります。		
28	電線類地中化延長	38.1km(H15)	98.5km(H25)	78km		
29	国県指定文化財数	638件(H15)	679件(H25)	688件	↗	
30	市街地の人口1人当たりの 身近な公園の整備面積	1.7㎡(H15)	2.02㎡(H25)	2.0㎡		

基準値、現状値及び目標値のかつこ内は年度。かつこ書きがない目標値は計画最終年度（H25）の目標。

指標の項目	基準値	現状 (平成25年度末)	目標値	推進 状況	備考(平成25年度末)
31 「緑の教室」受講者数	641人(H15)	855人(H25)	1,000人	↗	
32 温室効果ガス総排出量	6,983千t-CO2(H17) (6,665千t-CO2(H22))	7,121千t-CO2(H23) 6,557千t-CO2(H23)	6,041千t-CO2(H24) 5,809千t-CO2(H32)	↘ ↗	東日本大震災の影響等に伴う原子力発電所の停止により、火力発電による発電量が増加し、電力の排出係数が悪化したことが主な原因。 下段は、電力排出係数を温暖化対策実行計画(H26年3月策定)の基準年であるH22年度の値に固定して算出した場合の数値。
33 森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	676千t-CO2(H17)	962千t-CO2(H25)	942千t-CO2(H24)		
34 環境科学研究所における環境学習プログラム参加者数	18,547人/年(H15)	25,412人/年(H25)	19,000人/年		
35 やまなし森の教室参加人数	10,000人/年(H15)	11,983人/年(H25)	20,000人/年	↗	
36 学校林活動実施校数	23校(H14)	38校(H25)	46校	↗	
37 親子エコスクール参加者数	40人(H16)	-	80人	-	
38 環境科学研究所による学習指導者派遣回数	11回(H15)	77回(H25)	15回		
39 山梨環境科学カレッジ修了者数	24人(H15)	22人(H25)	24人	↘	年間を通して広報活動を行ったが、基準値の受講者数を下回った。
40 環境学習指導者派遣回数	40回(H16)	69回(H25)	40回		
41 環境美化活動参加者数	370,647人(H14)	555,114人(H25)	400,000人		
42 土木施設環境ボランティア数	16団体(H15)	91団体(H25)	86団体(H26)		
43 人口10万人当たりのNPO法人数	10.6法人(H15)	47法人(H25)	40法人		
44 森林ボランティア団体数	18団体(H15)	86団体(H25)	50団体		
45 環境科学研究所来館者数	46,266人/年(H15)	39,548人/年(H25)	50,000人/年	↘	H25.6に富士山が世界文化遺産に登録され、近隣の構成資産等に来客が集中したことや市町村の同様の施設が充実してきたことが、来館者の減少に影響しているものと考えられる。
46 環境情報センター利用者数	13,671人/年(H15)	5,465人/年(H25)	19,000人/年	↘	環境学習プログラム参加者の情報センター利用率が低く、H19以来基準値を下回っている状況。
47 環境科学研究所における図書等貸出数	図書2,442冊、ビデオ679本(H15)	図書1,741冊、ビデオ270本(H25)	図書2,900冊、ビデオ760本	↘	環境情報センターの利用者数減少に伴い、図書等貸出数も基準値を下回っている。
48 やまなしの環境アクセス数	-	6,585件/年(H25)	12,000件/年	↗	
49 環境科学研究所研究テーマ数	27テーマ(H16)	24テーマ(H25)	27テーマ	↘	研究テーマの新陳代謝(新テーマ8、終了テーマ9)により、前年度から1テーマ減となった。
50 環境研フォーラム、国際シンポジウム参加者数	130人(H16)	302人(H25)	130人		
51 富士山周辺の環境美化活動参加者数	29,000人/年(H15)	12,521人/年(H25)	30,000人/年	↘	これまで富士山五合目で行われていた1万人規模の大型イベントが開催されなかったことが主な要因。
52 富士山スバルラインのマイカー利用率	29%(H22)	22%(H25)	前年より低くなる。		
53 新規林業就業者数	41人(H15)	54人(H25)	50人		
54 水源の森づくり面積(育成複層林面積)	8,000ha(H15)	17,557ha	17,000ha		
55 エコファーマー認定者数	2,080人(H15)	7,738人(H25)	4,000人		
56 甲斐のこだわり環境農産物認証件数	年間22件(H15)	年間14件(H25)	年間100件	↘	化学合成農薬と化学肥料をさらに削減した取り組み(有機栽培、特別栽培)への移行等により、基準値を下回った。

推進状況の凡例

□	目標を達成しているもの
↗	指標が改善しているもの
→	指標が横ばいであるもの
↘	指標が改善していないもの
-	事業を廃止したもの